

南アフリカの中国系議員

—台湾外交の人的遺産—

吉田 崇一

南アフリカ（以下「南ア」）における中国人移民は三〇数万人と言われている。歴史的には一九世紀後半、金鉱開発が進み中国人坑夫が流入、商人もポートエリザベスやヨハネスブルグに入ったが坑夫の多くは契約終了後に帰国した。

その後長らく中国人移民は中断していたが、一九八〇年代にはアパルトヘイト体制を容認した台湾と南アの経済関係拡大の結果、政策としての台湾人移民受け入れが拡大した。特に一九八〇年のP.W.ボータ首相（後の大統領）の台湾訪問によりその関係を制度化する動きが進んだ。また一九八四年憲法と翌年の居住地に関する法改正により中国人は白人居住区の不動産所有と居住が認められたこともあり、一九九五年には台湾人移民の流入はピークを迎え、その人口は約三万人となった。同じ時期に中国返

還を控えた英領香港住民の南ア移民も増加し、これは一九九七年、香港返還の年にピークを迎え一五〇〇〇人程度の香港系中国人が移民した。

台湾、香港出身の移民は高学歴者や富裕層も多く、特にアパレル縫製業など軽工業投資者が多い。これらの台湾、香港出身の投資家は、旧ホームランドに設置された工業団地や旧黒人居住区に隣接する工業地区に投資した。台湾出身移民で知名度が高いのは政治家となったシアンビン・ホワン（黄士豪）である。ホワンは一九五五年生まれ、一九八八年に台湾より二〇〇万米ドルの投資資金を手に移民した一世でニューカースル市にて縫製業を起こした。

ニューカースル市は自治体として台湾企業への投資優遇措置を制度化したことから、一九八〇年代

台湾企業による投資が集中し、それにもない移民が増加した場所である。人口約四〇万人の工業都市で、一九九〇年代半ばには中国人による企業、約二〇〇〇社が進出し、中国人経営の製造業七〇工場が立地するまでに至った。

ホワンは一九九一年にニューカースル華人投資協会会長、一九九二年にはアフリカ華商連盟総会長となった。南アが民主化しマンデラ政権が誕生した一九九四年のタイミングで、インカタ自由党に入党してニューカースル市議に当選した。一九九六年には副市長に昇格し、一九九九年ニューカースル地区の党主席となる。インカタ自由党はズル人の集中するクワズルナタール州を基盤とする政党で、民族主義的な政党の印象が強いが、台湾系企業が黒人の雇用を多数創出していることからホワン

はニューカースルに安定した政治基盤を築いた。ホワンはその後二〇〇〇年には離党し、二〇〇四年には与党アフリカ民族会議ANCより総選挙に立候補、国会議員に初当選した。

その他の中国系政治家も全員が台湾系移民である。シエリー・チェン（陳阡蕙）は一九五五年生まれで台湾大学貿易管理系を卒業後、一九八一年に南アに移住した一世である。台湾系企業の英文秘書等を経て投資家に転じ、縫製業を含め多角的に投資してきた。アパルトヘイトの終結した一九九四年には白人政権下の旧与党国民党を継承した新国民党NNPに入党し、二〇〇〇年にはヨハネスブルグ市議に当選、二〇〇四年には国会議員に当選した。

マイケル・スン（孫耀亨）は幼少時、一九八五年に南アフリカ北部の地方都市ピーターズバーグに移住した一・五世である。父親はやはり縫製業を営んでいる。スンはサウスアフリカ大学法学部卒業の後、中国系としては初の弁護士事務所を開設した。二〇〇三年には最大野党である民主同盟DAに入党し、二〇〇六年の地方総選挙にてヨハネスブルグ市議に当選する。

クリストファー・ワン（王翊儒）

は一九七七年台湾生まれで一九九一年にケープタウンに移民し、一九九二年にはケープタウンにて台湾の仏教慈善団体である慈濟基金会などに関わり始める。ケープタウン大学情報工学部に学びながら、九八年中国人学生会会長となった後、ケープタウン大学情報工学系助教、アフリカ台湾商會連合總會事務局長、同青年部会長、世界台湾商會連合總會青年會議所事務局長など台湾系移民団体の職を歴任している。

ワンは二〇〇三年に野党独立民主党IDDの設立のタイミングに党代表パトリシア・デリールと知己となったことで独立民主党IDD青年部会に参加した。二〇〇四年総選挙でIDDの推薦順位七位となり当選、二六歳の最年少国会議員としてデビューを果たしたが、翌年には離党しANCへ移り二〇〇九年まで一期を務めた。

台湾、香港出身者の流入はその後一九九七年を境に急減した。同年七月には香港が中国に返還され、一二月に南アは台湾と国交を絶ったからである。香港が中国の一部となったことで、南ア政府は北京との国交なくして香港との関

係を維持できなくなっていたのである。ヨハネスブルグ・香港間の航空路や在香港南ア領事館の維持が不可能となり、長期的な対中経済関係の拡大を見越した結果、台湾との外交は絶たれ、一九九八年一月に北京との外交関係が開設された。この結果、台湾からの南ア移民の道は閉ざされ、三万人の台湾系人口は今日六〇〇〇人にまで減少している。

断交後、多くの台湾系人は第三国へ移民し、また台湾経済の好況や台湾IT産業の興隆によって賃金条件が南アよりもよくなったことから台湾への帰国も進んでいる。香港系移民も中国返還後の状況をみながら帰国の途について者も多い。

その後二〇〇〇年代に入り台湾系、香港系の激減した南アには大陸中国から三〇万人の移民が流入し中国系社会は変革している。北京語話者などの新移民が大量に流入し始めたことで、英語話者である老華僑グループと台湾移民一・五世はそのアイデンティティ危機に晒されているとも言える。

マイケル・スンの弁護士事務所では今日、その業務の八割が中国人が関わる法手続きや調停問題と

なっている。南アフリカ移民局や南アフリカ警察、ヨハネスブルグ警察から新移民が受けていた嫌がらせや金銭要求が問題視されるようになり、スンは弁護士として、また市議会でも新移民の安心安全な環境の実現に東奔西走している。英語話者の少ない新移民コミュニティが移民当局や行政執行機関との間で弱い立場に置かれていることは事実で、強硬的な行政執行の問題が現地の中国語新聞「非洲時報」や「南非華人報」に取り上げられることが多くなっている。

スンは中国系の多くのコミュニティ組織に顧問として招かれるようになっており、例えば新移民の投資家を中心となって形成された新中華街の自警組織である「西羅町（シリルティン）唐人街警民委員会」や、中国政府の主導下、台湾と中国の統一を目指す「全アフリカ中国和平統一委員会」にも台湾系南ア人でありながら顧問として参加している。

これら台湾系政治家の最近の動向をみるとクリストファー・ワンはANC入党後ケープタウン地区を担っていたが二〇〇九年総選挙では党内推薦順位が予想当選ライン以下となったことから立候補を

断念した。現在もANC黨員としてケープタウンを基盤に地道に活動は続けており二〇一三年総選挙での立候補を目指して近年は最貧困地区のカエリチャで地区社会活動に取り組んでいる。

ホワンは国会にて貿易投資委員を務めていたが二〇一〇年に南アで開催されたサッカーワールドカップのキャラクターグッズを自ら所有する縫製企業で受注し、中国の搾取工場に安値で委託生産させていたことが広く非難を浴びて党内や国会での要職から降りることとなった。

もう一人の一世議員であったユーージニア・チャン（張希嘉）（イノカタ自由党）は二〇〇四年に初当選したが、台湾での税逃れ等により検挙され二〇〇九年に党より除名、南アの政界より退いた。シェリー・チェンは二〇〇九年総選挙を目前に党より推薦を取り付けることができずやはり引退した。台湾系政治家の活躍と引退劇は流転した台湾・南ア関係を表すかのようであるが、それでも一・五世以降の台頭と活躍は始まったばかりである。

（よしだ えいいち／横浜市立大学）